

A film by Anca Damian

アドラーの 幻想的な物語



幸せは ほんのちっぽけなこと
ひと皿のミルク
昼寝
骨をかくす場所
そして、大切な人との時間――



監督:アンカ・ダミアン 脚本:アングル・ダミアン キャラクター・デザイン:ブレヒト・エヴェンス 背景美術:ジナ・トーステンセン/サラ・マゼッティ
音楽:パブロ・ピコ プロデューサー:アンカ・ダミアン/ロン・ディエンス(『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』)/トマス・レイヤース

2019年ルーマニア・フランス・ベルギー|フランス語|DCP|92分 提供:リスクット/マクザム/太秦/カルタクリエイティブ 配給:リスクット 後援:ルーマニア大使館 協力:キャトルステラ/stylab/げんべい商店

夢とアートに溢れた“ワンコ・アニメーション” TAAF2020グランプリ受賞!!

さながら動く前衛芸術

『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』のプロデューサーであるロン・ディエンスと、アニメ界最高峰のアヌー国際アニメーション映画祭最高賞受賞歴を誇るアンカ・ダミアン監督のもと、ルイ・ヴィトンの「トラベルブック」シリーズ・パリ編で知られるブレヒト・エヴァンス、グラミー賞アーティスト、ゴティエのミュージック・クリップを手掛けたジナ・トーステンセン、ボローニャ国際児童図書展で国際賞受賞のイラストレーター、サラ・マゼッティといったアニメーターが作り上げた映像はまさに動く前衛芸術。特にクライマックスでのマロナの視点で描かれた2Dと3Dを融合させた描写は圧巻で、映画表現の歴史に刻まれるべきシーンとなっています。

幸せはほんのちっぽけなこと

本作のもう一つの魅力は、物語性。異形で変幻自在な動きの登場人物たちは、それぞれ人間味があり、作品の中で息づいています。そんな登場人物たちとの交流を通じてマロナは成長し、自分にとって一番大切なことに思いを寄せるのです。パブロ・ピコによる主題歌『ハビネス』の歌詞には作品のテーマが色濃く出ています。“幸せはほんのちっぽけなこと とるに足らないこと ひと皿のミルク 昼寝 骨をかくす場所 そして、大切な人との時間ー”。自分にとって、ともすると忘れがちな大事なことを、マロナの生涯を通じて再認識させてくれる作品です。

海外アニメは魅力がいっぱい

数多くの国産アニメが公開される日本では、なかなか公開の機会がなかった非英語圏のアニメですが、2019年から少し状況が変化してきました。『羅小黒戦記』、『幸福路のチー』といったアジアの作品、『失くした体』、『ディリリとパリの時間旅行』といったヨーロッパのアニメーションの秀作が次々に公開され、そのクオリティの高さが話題となりました。そして、アヌー国際アニメーション映画祭でクリスタル賞(グランプリ)を受賞した『ロング・ウェイ・ノース 地球のてっぺん』のレミ・シャイエ監督の新作『Calamity』も2021年に日本公開が決定のこと。今後益々、海外アニメーション映画から目が離せません。

そのビジュアルをひと目見ただけで
心の奥底に響く映画がある。
この映画が、それだ!
— アニメーション研究家 五味洋子

ユニークなものを作り出そうという
意欲と高度な技術が融合して、
この素敵なお話が誕生した。

— First showing.net

<https://maronas.info>  @maronas_fantasy  @maronas_fantasy  @maronasfantasy

8月29日(土)    先行公開決定!
9月12日(土)      全国順次公開

前売り鑑賞券 1,500円(※当日券 一般1,800円)税込

劇場窓口にて購入の方、特製A4クリアファイル進呈

渋谷Bunkamura前交差点左折

ユーロスペース
EUROSPACE

tel.03-3461-0211 www.eurospace.co.jp